

社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会
(平成26年度第2回)

議事概要

1. 日 時 平成26年7月23日(水) 19:30~21:00
2. 場 所 九段第3合同庁舎 15階 会議室A, B, C
3. 出席者
[委員長]
石田 東生 (筑波大学大学院システム情報工学研究科教授)
[委員]
久保田 尚 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)
小濱 哲 (横浜商科大学貿易・観光学科教授)
二村真理子 (東京女子大学現代教養学部国際社会学科准教授)
牧野 昌子 (特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事)
味水 佑毅 (高崎経済大学地域政策学部観光政策学科准教授)
[関東地方整備局]
道路部長 後藤 貞二
道路企画官 山田 哲也
甲府河川国道事務所長 田中 克直
長野国道事務所長 護摩堂 満
4. 議 事
(1) 挨拶
・ 関東地方整備局 道路部長
(2) 審議
・ 中部横断自動車道(長坂~八千穂)の計画段階評価

<結果概要>

○対応方針(案)について、以下の通りにて了承された。

- ・ ルート案は「全区間で新たに道路を整備する案」とし、山梨県内区間は、「清里高原の南側を通りつつ、よりアクセス性に配慮したBルート案」とする
- ・ 道路構造等の検討については、環境・景観に十分に配慮した設計・施工とする。
- ・ 地域のまちづくりと高速道路整備が調和するように、地元の取組と連携し、地域との丁寧なコミュニケーションを図っていく。
- ・ これらについては、経済性に配慮しつつ、積極的に対応する。

<委員からの主な意見等>

○山梨県内のルート検討

- ・ A案は相当深い谷であり、これを構造物で越えていくというのはかなりなもの

になると予想された。

- ・ A案とB案の結節点の違いは、距離だけでなく地形の問題が大きい。A案の場合、非常に谷になっているから、埋めて、あるいは越えていくのはコスト的にも技術的にも非常に困難と感じた。

○地域とのコミュニケーション活動

- ・ 高速道路の整備に関連して地域で検討の場が設置されたことや、意見の異なる団体同士がコミュニケーションを図る場が用意されたことはなかなか例もなく、有効だったと思う。
- ・ つくる道路については、まず地域で積極的に活用いただき、広域でもうまく活用して欲しい。一方である程度の地域分断も起こると思うが、計画段階にあるのだからコストに留意しつつ懸念をできるだけ潰していく工夫をお願いする。

○これまでのルート検討経緯

- ・ 結果的には時間がかかったかもしれないが、費用の面からもより有用な、かつ地元の要点も考慮できた案が出てきたということで有意義だったのではないか。

○対応方針（案）について

- ・ 県市からは地元の様々な意見に丁寧に対応していくとの回答があるが、国としても、今後も丁寧なコミュニケーションをお願いしたい。
- ・ 対応方針案に出てくる環境や景観について、どこのどんな環境、どこから見たどちら向きの景観を守るのか具体的にするとともに、広域的な中でのこの区間がつながることで、避難誘導やリダンダンシーでどう役立ち、観光がどう変わるのかという価値を明らかにしていただきつつ、一日も早い次の段階へのステップアップを進めて欲しい。
- ・ 政策目標のうちルート検討の評価項目から抜けている企業誘致・雇用の促進と公共交通の利便性の向上は、道路事業だけで如何ともしがたいものだが、この道路が地域に本当の意味で役立つものとなるよう、地域とのより一層のコミュニケーションをお願いしたい。
- ・ 国道141号の沿道には多くの方が住んでおり、お店もあり観光客もいらっしゃる割に、走行性・安全性が非常に気になる。この高速道路が出来ることにより国道141号がどれだけ良く出来るのかも議論して欲しい。
- ・ この道路の整備効果について、もしかすると道路本来の使い方かもしれないが生産品の輸送時間の短縮についても少し強調しておくべきではないか。また、都会の人に農業に触れてもらおうと思った時にはアクセスのよさが1つの武器となる。グリーンツーリズムで1つ頭が出た地域になって欲しい。

- ・ワーキンググループの技術的検討や地域との色々な形での多重多層のコミュニケーションにより政策目標の拡充、代替案の進化という成果につながり、それが両県知事及び沿線9市町村全てからの賛同と早期整備の要望という形で表れたのではないかと。そういう意味でルートとコミュニケーション活動に対し合格点を与えたい。
- ・一部の方からの懸念と反対もあることは認識しているが、地域の交流、連携の活発化、広域的な効果や沿線の産業や観光の振興、災害時の代替路としての地域強靱化への貢献などが強く期待されているのも事実であり、この対応方針の下でステップを進めていただきたい。
- ・これから事業を具体化していくにあたり、地域にどうなじむか、地域のためにどう役立つか、地域としてどう活用するかが求められるのでより一層、丁寧なコミュニケーション、誠実な対応をお願いします。

○その他

- ・計画段階評価の事例を見ると、パターン化されている面がなきにしもあらずと感じる。このプロジェクトも当初そのパターンを踏襲していたが、問題の質が違い、あまり適切ではないとの意見が出て、ワーキンググループでのルート検討や一層多様なコミュニケーションをお願いしたもの。今後もパターン化、モデル化した計画段階評価を続けると地元に迷惑をかけることが懸念されるので、計画段階評価の適用の考え方を再整理いただくこともお願いします。